

サンプル／1級造園施工管理 これだけ項目集

1級 造園施工管理 実地試験

問題4 品質管理

◎は、予想が的中したものです。

	H30重点	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20
◇ 品質規格		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
寸法基準の判定	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
寸法規格の検査部位	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
樹姿の品質規格	○	◎	◎	◎	◎		◎		○		○
樹勢の品質規格	○	◎	◎◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
芝の品質規格	○			◎	◎	◎		◎		○	
草花の品質規格	○	◎		◎		◎				○	
樹木の樹高と樹形				○							
品質規格と寸法規格	○	◎			◎		◎			○	○
株立(物)							○				
◇ 植栽工		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇		◇	
掘り取りの作業手順		◎		◎				◎			
樹木の保管措置	○			◎			○				
植付け後の防寒対策	○				◎						
植付け後の養生作業の目的		◎			◎						
根鉢の作業内容と品質管理	○					○					
根巻きの目的と方法	○		◎			◎					
幹巻きの目的と方法	○							◎			
仮置き場の表土の保護養生	○		◎							○	
◇ 土壌・基盤			◇			◇			◇		◇
透水試験器からの判定	○					◎					○
土壌貫入計からの判定	○										○
植栽基盤の試験器	○										○
石材のJIS規格									○		
土壌の透水性・排水性	○		○								

サンプル／これだけ項目集 造園施工管理 1 級実地試験

問題 4 品質管理

◇ 品質規格

1 造園 実地 H29-4-2-1 H28-4-1-1 H27-4-1-1 H26-4-2-1 H26-4-2-2 H25-4-1-1
 H24-4-1-4 H23-4-1 H22-4-1 H21-4-2 H20-4-1-1

寸法規格の検査部位

樹高（H）

樹木の樹冠の頂端から根鉢の上端までの垂直高をいい、一部の突出した枝は含まない。
なお、ヤシ類など特殊樹にあって「樹高」と特記する場合は、幹部の垂直高をいう。

幹周（C）

樹木の幹の周長をいい、根鉢の上端より1.2m上りの位置を測定する。

この部分に枝が分岐している時は、その上部を測定する。

幹が2本以上の樹木の場合においては、各々の幹周の総和の70%をもって幹周とする。

枝張（葉張）（w）

樹木の四方面に伸長した枝（葉）の幅をいう。

測定方向により幅の長短がある場合は、最長と最短の平均値とする。

なお、一部の突出した枝は含まない。葉張とは、低木の場合についていう。

株立数

株立（物）の根元近くから分岐している幹（枝）の数をいう。樹高と株立数の関係については、以下のように定める。

2 本立：1 本は、所要の樹高に達しており、他は、所要の樹高の70%以上に達していること。

3 本立以上：過半数は、所要の樹高に達しており、他は、所要の樹高の70%以上に達していること。

1 造園 実地 H29-4-2-2 H28-4-2-1 H27-4-1-2 H26-4-3-1 H24-4-1 H22-4-2 H20-4-1

樹姿の品質規格

樹形

樹種の特性に応じた自然樹形、樹形が整っていること。

幹（高木にのみ適用）

幹がほぼまっすぐで、単幹であること。

（但し、株立物及び自然樹形で幹が斜上するものはこの限りでない。）

枝葉の配分

配分が四方に均等であること。

枝葉の密度

徒長的な生長、その他の異常な生長が認められず、節間が詰まり、枝葉密度が良好であること。

枝下

樹冠を形成する一番下の枝の高さが適正な位置にあること。

◇ 植栽工

1造園 実地 H29-4-3-1 H27-4-2 H23-4-3-1

掘り取りの作業手順

灌水

掘取りを行う半日～1日前に、灌水により根鉢全体に湿り気を与え、移植作業期間中の根鉢の崩れや乾燥の防止を図る。

枝折り、枝下ろし

掘取り作業に支障となる下枝を上方に向け縄で縛り付ける（枝折り）。また、根回し後に繁茂した枝葉や枯枝、弱枝等を取り除き（枝下ろし）、移植作業により低下する水分吸収力に対し蒸散量のバランスをとる。

上鉢のかき取り

掘取り作業に際し根鉢の表面の土を薄くかき取り、雑草類の移植先への持ち込みを避ける。

倒伏防止措置

3 m以上の高木は、簡単な八つ掛け、ロープ等で掘取り作業中の倒伏防止を図る。

掘回し

掘り取る根鉢の径を決定し、そのやや外側をスコップ等で垂直に掘り下げ、側根の出現がなくなったら、底部に向かって掘り進み根鉢を周囲から切り離す。

掘回しの際には、細根をできるだけ切らずに残すようにする。切り離した根鉢は、側土を削り全体を整えるとともに、切り離した側根や直根を鋭利な刃物や鋸で切り直し、水苔やワラ、タープ等で養生し乾燥や腐れを防止する。

根鉢の形状は、一般には、底部が半球状の並鉢とするが、根系が浅く広がる場合は底部が皿状の皿鉢、直根が深いものは底部をベイ尻（貝尻）の形状とする。

掘回しの溝幅は、鉢高の2割の幅にスコップ幅を加えたものを標準とするが、概ね50～100 cm程度の幅があればよい。

根巻き、たたき

根鉢に土を付けたまま掘り上げる際に、ワラやコモ、麻布（ジュート）等で包み込むように巻き締め、根鉢の崩れや土の落下を防止する。

ふるい掘りでは根鉢の土をほぐし、たたくなどしてふるい落とす。

穴上げ

掘り上げの準備が整った根鉢を鉢穴から取り出す。これを穴上げという。

8. 幹等の保護・養生

積み込みや運搬時に傷が付かないよう、幹や太枝を縄やムシロ等で巻く。また、作業がしやすいよう枝をまとめ枝張りを小さくする。

運搬

機械や人力により掘り取った樹木を移植先へ運搬する。

積み込みや移植先での積み卸しの際に、ワイヤー等が樹木に食い込み傷付けないよう留意する。